

「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」第2回検討会

平成31年2月22日に常呂町多目的研修センターにおいて、「常呂川下流地区水害タイムライン検討会 第2回検討会」を開催しました。タイムラインは、地域住民の円滑な避難を図るために必要な行動項目やタイミングを関係機関と連携して検討し、災害が発生する前までに安全な避難を行うための事前防災行動計画を策定するものです。第2回検討会では、第2回検討会の結果を踏まえて作成した「常呂川下流地区（常呂自治区）水害タイムライン（第1次案）」に基づき、各段階での防災行動に関する関係機関等の役割分担を中心に協議を行いました。

■ 開催日時 平成31年2月22日（金）13:00～17:00

■ 実施場所 北見市常呂町多目的研修センター 1階大ホール（北見市常呂町土佐2番地1）

■ 参加機関 北見市、網走開発建設部、網走地方気象台、陸上自衛隊、北海道オホーツク総合振興局、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会・北見市教育委員会、北海道電力株式会社、常呂漁業協同組合、JA北海道厚生連常呂厚生病院、常呂町建設業協会、常呂自治区内10町内会 計83名

1. 開会

事務局機関である網走地方気象台黒田次長より「座長、アドバイザー、多数の関係機関・団体の協力の下に第2回検討会を開催することに感謝申し上げます。

本日は第1回検討会の結果を踏まえ、タイムライン第1次案を用いた具体的な防災行動の議論を行います。このタイムラインの検討を通じ、水害から命を守るため、地域での防災活動の担い手となる皆様と顔の見える関係を構築しながら、実践的でより有効なタイムラインの策定に向けて検討を進めていくこととなりますのでご協力をお願いします。」との開会挨拶を受け、関係機関83名が参加し、第2回検討会が行われました。



網走地方気象台 黒田次長

2. ワークショップ（議論内容）

松尾座長より「今回は2回目の検討会となる。皆さんのお手元には多くの資料が配られており、具体的に水害に備えた行動計画を策定して、水害から命を守るための取り組みを皆さんで協力していいものを作っていきましょう。」との挨拶の後、事務局からワークショップの進め方の説明を行い、6テーブルに分かれてグループワークを開始しました。



松尾座長

<ワークショップの具体内容>

ワークショップでは第1回検討会（平成30年12月27日開催）の議論結果をとりまとめた『常呂川下流地区（常呂自治区）水害タイムライン（第1次案）』の総括表・詳細表・協議事項確認表を題材とし、第1回検討会と同様にグループ別に着目すべき論点を設定した上で議論・検討を行いました。

防災情報・意思決定グループ…行政機関が行うべき情報の発信、収集及び共有と防災行動に関する意思決定や指示

市民安全支援グループ……… 確実な安全確保行動（逃げ遅れ防止、要配慮者支援、避難所運営等）を行うための防災行動

市民安全行動グループ……… 確実な安全確保のために住民や地域が実施すべき防災行動や行政との連携内容

地域安全対策グループ……… 市民の安全確保行動を支援するための情報提供・避難広報・避難誘導・救助活動を目的とした防災行動

生活基盤対策グループ……… 住民生活の基盤（ライフライン等）における影響を軽減または早期復旧するための防災行動

防災基盤対策グループ……… 防災施設や道路等（防災基盤）の浸水被害を軽減する方策と早急復旧のための事前対策

今後は、『常呂川下流地区（常呂自治区）水害タイムライン（第2次案）』（総括表および詳細表）を作成し、第3回検討会での検討素材とする予定です。



ワークショップの全体風景

2. ワークショップ（議論の様子）



＜防災情報・意思決定グループ＞
北見市・教育委員会・気象台・振興局
開発建設部



＜市民安全支援グループ＞
北見市・社会福祉協議会
JA北海道厚生連・開発建設部



＜市民安全行動グループ＞
北見市・消防組合・常呂町内会



＜地域安全支援グループ＞
消防組合・常呂漁協・陸上自衛隊
北海道警察・常呂町建設業協会



＜生活基盤対策グループ＞
北見市・北海道電力(株)
開発建設部



＜防災基盤対策グループ＞
北見市・振興局・開発建設部
災害応急復旧協定会社

3. 全体講評

本日の検討会全体を通して、アドバイザー、座長からそれぞれ講評を頂きました。

＜根本昌宏アドバイザー（日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター長）＞

本日は、市民安全行動グループに参加させて頂いた。今回の議論で、タイムライン表という形で様々な行動が具体的に増えてきたところである。市民安全行動グループの議論は、特に「避難行動要支援者」というキーワードに着目していたように感じた。

これは市民安全支援グループとも協働していくことが望まれる内容である。特に避難行動要支援者と呼ばれる方々に着目すると、日常生活の中で起こっている「ちょっとした困り事」というものがあるが、有事時には「大きな困り事」に変化することが多い。今の段階から想像し、解決できることから少しずつ対応していくことが重要である。赤十字の「人道」の4つの敵として、『無関心』『利己心』『認識の不足』『想像力の欠如』というものが挙げられている。タイムラインはこの4つの敵を全て打破できるものであると考えている。タイムライン検討が次のステップに進み、具体の実現可能な物になることを期待している。



根本アドバイザー

＜松尾一郎座長（東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター客員教授）＞

4時間の議論、お疲れ様でした。ステージ5とステージ6の間が災害の発生するかもしれないという直前の状況である『ゼロアワー』では消防や警察、行政機関の職員も命を守る行動をとるべきであり、このタイミングでは全対応者が「退避」するのだということタイムライン上に明記しておくことが必要である。また、このことを地域全体で認識共有することが命を守る上で重要である。今日の議論結果を事務局できちんと整理をした上でグループ間の調整を行っていくことになると思う。

これから出水期までの間に議論を重ね、タイムライン表を作り上げていくこととなるが、この段階で完成するタイムライン表はどんなに一所懸命にやっても100点満点の65点から70点程度のもとなる。そのため、試行運用を踏まえてブラッシュアップし続けていくことが非常に重要である。



松尾座長

4. 閉会

司会から次回の検討会は平成31年4月を予定していること、今回の結果を整理したものを各機関へ意見照会すること、人事異動等に伴う委員変更の連絡依頼が伝えられ、第2回検討会は終了となりました。